

[注意] 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昨年の秋、小学六年生の「ぼく」(ノブ)が暮らす団地の真下の部屋に、北嶋さん老夫婦が引っ越してきた。ここに五月、小学四年生のオサムが加わった。おじさんの遠い親戚の子ともで、事情があつて引き取ることになつたのだという。ある日、自治会の役員である坂田さんの財布がなくなり、それはオサムの仕業であつたことがわかつた。北嶋さんはオサムが使つたお金を坂田さんに支払い、この件は何とか警察や学校にまで話を持って行かずに収まつた。

その日、友だちと遊んで夕方帰宅すると、母と北嶋のおばあさんが茶の間で話していた。

入院中のことの相談だろうか、と茶の間をなにげなく覗いたら、おばあさんが目元にハンカチを当てているのが見えた。

あわてて顔を引つめると、母に「ノブ、ちょっと」と呼ばれた。「いいから、入ってきなさい」

ハッピの申し込み票が、ちゃぶ台の上に置いてある。

「これ、いまから会館の事務室に出してきて」

申し込み票には、ぼくの名前が書いてあつた。

「あんたの名前で申し込みんだけど、お祭りのときはオサムくんに貸してあげるから」

① 母は早口に言つて、申し込み票を「はい」と渡してきた。

「五時になったら事務室が閉まっちゃうから、自転車で、すぐに行つてきて」

と、言われても……。

「ちょっと待つてよ。どういふこと？ 全然ワケがわかんないんだけど」

申し込み票には手を伸ばさず、訊いた。母もさすがに、これだけの説明で行かせるのは無茶だとわかつていたのだろう、しぶしながらも説明してくれた。

オサムのハッピは、おばあさんがもう何日も前に申し込んでいた。事務室で受け付けてくれた子ども会の役員も「ハッピが届いたら回覧板や掲示板でお知らせしますから」と引き換え券を渡してくれた。

ところが、今朝になつて別の役員から電話がかかつてきた。オサムはハッピを借りられない。子ども会に入っていないオサムには、そもそもハッピを借りる資格がないのだという。

「でも、子ども会つて、みんな入ってるんじゃないの？」

びつくりして訊き返した。『杉っ子クラブ』は自主参加でも、子ども会のほうは、団地の小学生は全員、自動的に入っているはずだった。

「わたしが悪いの……全部、わたしのせいなの……」

おばあさんは震える声で言つた。

「オサムくんを引き取るとき、ほんとうは自治会に届けて、子ども会に入れてもらう手続きをとらないといけなかつたのに、そういうのを全然考えもしなかつたの。団地に住むのは初めてだったから、なんにもわかつてなくて……」

赤くうるんだ目からは、ハンカチで拭つても拭つても、涙があふれてくる。

「おばあちゃんちつとも悪くないわよ」

母はすつかり腹を立てていた。「だいいち子ども会限定つて、なによ、それ」

でも、役員がおばあさんに説明したところによると、ハッピを貸衣装屋さんから借りる費用は、子ども会の予算から出ているらしい。だから会費を支払っていない子どもに貸し出すわけにはいかない、という理屈だった。

おばあさんは「いまからでも子ども会に入れますか？」と役員に訊いた。オサムが団地に来た五月にさかのぼつて会費を払うつもりだった。それなら、ハッピを貸してもらえない理由は消えてなくなる。

役員は「ほかの役員とも相談してみますので、夕方までに、また連絡します」と言つて電話を切り、その連絡が、さつき来た。

「ダメだったの。もう間に合わないんだつて」

おばあさんはぼつりと言つた。たといえますぐ入会の手続きをとつても、規則では、手続きの翌月からの入会になる。ハッピの申し込み締切が十一月三十日で、オサムが子ども会のメンバーになるのは十二月一日なので、ぎりぎり、オサムにはハッピを借りる資格がない。

「なんなの、それ、おかしいよ、そんなのつて——」

〔注意〕答えはすべて解答用紙に書きなさい。

啞然として、あきれはてて、言葉がそれ以上出てこない。たった一日のことなのだ。形だけのことなのだ。

「でもね、ルールはルールだから、しかたないのよ」

おばあさんは、ぼくをなだめて、寂しそうに微笑む。「例外を一つつくるときりがないから、つて言われちゃうと、そのとおりなんだから」

納得がいかない。悔しい。②子ども会が杓子定規なルールをふりがさすこと以上に、おばあさんがそれをしかたなく受け容れていることのほうが悔しくてたまらない。

母が話を引き取って、言った。

「北嶋のおばあちゃんの手術の日、決まったの。月曜日に入院して、火曜日に手術して、その次の週の金曜日から土曜日に退院できるはずだから……『廿日市祭り』に間に合うのよ」

だから、わかるでしょ、と目配せされた。ぼくも母のまなざしをまっすぐ受け止めて、うなずいた。オサムはまだなにも知らない。ハッピーのことも、おばあちゃんの手術の日が決まったことも。それでいい。正義の味方のヒーローは、困っているひとが知らない間に悪者を退治して、事件を解決するものなのだ。

ハッピーの申し込み票をジャンパーのポケットに入れて、ウチを飛び出した。階段を駆け下りて、最後はジャンプで下りて、棟の裏にある駐輪場までダッシュした。

③ぎゅわーん、ぐおーん、とエンジンのうなる音を心の中へ響かせて、自転車をとばした。

途中で、ふと気づいた。正義の味方といっても、じつは、ぼくの名前で申し込んでおきながら本番ではオサムが使うというのは、ずるくて、ひきょうで、正しくないかもしれない。ほんとうは、ルールを厳密に守る子ども会のほうが正しいのかもしれない。

でも、いいや、とペダルを踏み込んだ。スピードをさらに上げた。④正しくなくても、これは正義なんだ、と決めた。

杉ヶ丘会館のホールや集会室は、いつものように『杉っ子クラブ』が使っていた。クラブ以外の子が遊べるのは廊下や階段ぐらゐのもので、夏休みや秋の半ば頃までは毎日何組かがそこで遊んでいたが、いまはもう、そういう子は最初から会館に寄りつかなくなった。廊下や階段で遊んでいても、狭いし、暗い

し、寒いし、やつぱり面白くないから——ぼくだって、そうだ。

窓の外から覗いてみると、事務室には自治会や子ども会の役員が何人もいた。『杉っ子クラブ』のことで来ているひともしれば、『自治会だより』の新しい号の話し合いをしているひともある。部屋の中の活気やにぎわいが、外にも伝わってくる。去年までは、当番の役員が一人か二人、いかにもしかたなくといった様子で、退屈そうに話しているだけだったのに。

事務室のドアを開けた。近くの席にいた二人のおばさんが同時に振り向いた。一人は知らないおばさんだったが、もう一人のほうは、見覚えがある。

坂田さんだ、と気づいた瞬間、頬がこわばった。坂田さんのほうは、ぼくのことを覚えていないようで、表情に変化はなく、もう一人のおばさんに応対を任せて、すぐに書きものの仕事に戻った。

申し込み票を出すと、受け付けてくれたおばさんは「締切、滑り込みセーフね」と笑って、引き換え券の「受付」の欄に「紺野」とサインして、券を渡してくれた。感じのよさそうなひとだった。⑤だからぼくも、ダメでもとまで――。

「子ども会に入っていないとハッピーは借りられないって、ほんとうなんですか？」

紺野さんは「瞬きよんとしてから、ああ、そのことね、とうなずいた。

「そうなのよ。最初の『自治会だより』には書いてなかったんだけど、自治会と子ども会で話し合って、やつぱり子ども会の予算から出てるんだから、そういうふうにしよう、つて。それに、ほら、子ども会は小学生は自動的に入ってるわけだから、みんな――」

「みんなじゃないです」

「え？」

「引越してきて、まだ入会の手続きを取っていない子も、います」

「まあ、そういう子もいるかもしれないけど……」

「いますぐ入会の手続きを取っても間に合わない、つて言われた子がいるんですけど」

「はあ？」

紺野さんは首をかしげ、助けを求めるように坂田さんに目を

〔注意〕 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

やった。

坂田さんは、書きものの手を止めずに「規則だからねえ」と言った。軽く、面倒くさそうに、あたりまえのことをいっいち訊かないで、と言いたげな口調だった。

「でも、間に合わないのって、たった一日なんだし——」

「規則だから」

⑥ A 今度は少し強い声になった。「小学生の頃から規則を守れないような子は、ろくなおとなにならないわよ」

⑥ B 坂田さんはこつちを見ようとせず、仕事をつづける。もしかしたら、と思った。でも、すぐに打ち消した。坂田さんを信じたのではなく、これ以上想像をめぐらせるのが怖くなくなったから。

⑦ A だいじようぶ、あのおばさんは規則を守ることをひたすら大切にしているだけで、相手がオサムだろうと別の子ともだろうと関係なくて、それに、⑦ B たえ、もしも、万が一、坂田さんがオサムに復讐しているのだとしても——。

いきさつをさかのぼっていけば、やはり、すべてはオサムのせいなのだ。

⑧ まっすぐウチに帰りにくなくて、団地の中を自転車で回った。

途中で通りかかった掲示板に、新しい貼り紙が出ていた。団地の大きな地図に、お祭りの日にお神輿が通るルートが描き込んである。その道はたに無断で駐めてある自動車や自転車を、三日前までにすべて片づけるように、という自治会からのお知らせだった。もしも期日を過ぎてもそのままにしておいたら、杉ヶ丘警察署の協力を得て、すべて撤去するらしい。

道幅が狭いわけではない。自転車はもちろん、自動車が路肩に駐めてあったとしても、お祭りのお神輿は楽に通れるが、

⑨ 自治会の皆さんにとっては、それは、お神輿が通れるか通れないかの問題ではなかった。

「お祭りには団地の外の皆さんも来られます。『管理の行き届かない団地だ』『住民に公共心がない』と誤解されないよう、団地の美化や居住規則遵守にご協力ください」

年が明けると、団地内の不法駐車や不法駐輪を一掃する運動に本格的に取り組む、という。

自転車の管理についての注意事項も出ていた。自治会に届け出をして、自治会が発行する駐輪許可のステッカーを後輪の泥よけに貼ったうえで、各棟ごとの駐輪場に駐めるように。駐輪場では、一台でも多くの自転車を駐めるために、必要以上に場所をとらないように。

自動車のほうは、団地内の駐車場は満杯なので、近隣の駐車場を自分で見つけて、団地の敷地内には決して駐車をしないように。乗り降りや荷物の積み下ろしなどで短時間の駐車をするときには、事務室に立ち寄って駐車許可証を受け取り、ダッシュボードに置いておくように。

締めくくりは、自治会役員一同からのメッセージだった。

「団地の良好な生活環境は、外から与えられるものではなく、私たち住民の自覚と協力によってつくりあげていくものです。」

⑩ 「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神で、住みよい杉ヶ丘団地づくりのために、お互い助け合いましよう。でも、自治会や子ども会は、オサムのためにお祭りのハッピーすら貸してくれない。

あたりまえじゃない、と坂田さんは冷たく言うだろうか。どろぼうをするような子はみんなの迷惑なのよ、と突き放すだろうか。

それを想像してみると、背中がぞくとした。想像ではなく実際に言われた言葉だったんじゃないかと思うほど、耳の奥で響いた声も、思い浮かべた顔も、なまなましい。

⑪ 自転車を漕いだ。ペダルを踏む足に力を込めて、お尻をサドルから浮かせた。

スピードを上げると、なまなましく浮かんできた坂田さんの顔がゆがみ、耳の奥に残ったままの声も、風切り音と一緒にたわむように揺れる。

やがて、顔も声も坂田さんから離れて、だれのものともつかなくなってしまう。

⑫ 「みんな」の顔で、「みんな」の声だ、と思った。

〔注意〕答えはすべて解答用紙に書きなさい。

問1 傍線①「母は早口に言って、申し込み票を『はい』と渡してきた」とあるが、この「母」の態度にはどのような気持ちが表れているか、説明しなさい。

問2 傍線②「子ども会が杓子定規なルールをふりかざすこと以上に、おばあさんがそれをしかたなく受け容れていることのほうが悔しくてたまらない」とあるが、「ぼく」がこのように思うのはなぜか、理由を説明しなさい。

問3 傍線③「ぎゅわーん、ぐおおーん、とエンジンのうなる音を心の中で響かせて、自転車をとばした」とあるが、この時の「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

問4 傍線④「正しくなくても、これは正義なんだ、と決めた」とあるが、この時の「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

問5 傍線⑤「だからぼくも、ダメでもともとで——」とあるが、この時の「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

問6 傍線⑥A「今度は少し強い声になった」という声の調子の変化、⑥B「坂田さんはこつちを見ようとせず、仕事をつづける」という態度から、「ぼく」が「坂田さん」のことをどう受け止めたのか、説明しなさい。

問7 傍線⑦A「だいじょうぶ」、⑦B「たえ、もしも、万が一」とあるが、ここから「ぼく」のどのような気持ちがわかるか、説明しなさい。

問8 傍線⑧「まっすぐウチに帰りたくなくて、団地の中を自転車で回った」とあるが、この時の「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

問9 傍線⑨「自治会の皆さんにとっては、それは、お神輿が通れるか通れないかの問題ではなかった」とあるが、それでは何が問題なのか、説明しなさい。

問10 傍線⑩「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神で、住みよい杉ヶ丘団地づくりのために、お互い助け合ひましょう」とあるが、そう言っている自治会がオサムにハッピーを貸してくれないことを、「ぼく」はどのように感じているか、掲示板に書かれている内容をふまえて説明しなさい。

問11 傍線⑪「自転車を漕いだ。ペダルを踏む足に力を込めて、お尻をサドルから浮かせた」とあるが、この時の「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

問12 傍線⑫『みんな』の顔で、『みんな』の声だ、と思った」とあるが、この時の「ぼく」の気持ちを説明しなさい。

□ 次の傍線のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

① ジントクのある人に出会う。

② タテマエばかり主張する。

③ 大声でショウワする。

④ 多大なソンシツをこうむる。

⑤ 研究でギョウセキをあげる。

⑥ ユウシユウの美をかざる。

⑦ あれた土地をタガヤす。

⑧ カチカンの違いを感じる。

⑨ 情報をシユウシユウする。

⑩ 水分がジョウハツする。

⑪ ガイトウで演説する。

⑫ ここでショクンに注意しよう。

⑬ ビョウシンが動かなくなる。

⑭ 前例にジュンずる。

⑮ 日本国ケンボウを学ぶ。

⑯ まとめて買えば割安だ。

⑰ 分別のないことを言う。

⑱ 工事はわが社が落札した。

⑲ 身内だけで祝う。

⑳ 大輪の花を咲かせる。

一

問 12	問 11	問 10	問 9	問 8	問 7	問 6	問 5	問 4	問 3	問 2	問 1

二

①	⑤	⑨	⑬	⑰
②	⑥	⑩	⑭	⑱
			ずる	
③	⑦	⑪	⑮	⑲
④	⑧	⑫	⑯	⑳
			す	